

アデランス

アデランス CSR

検索

<http://www.aderans.com/csr/>

笑顔のために

これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

アデランス

第2版

笑顔あふれる心豊かな社会へ

私たちは多くの人々に夢と感動を提供したい、笑顔と心豊かな暮らしに貢献したいとの思いから、毛髪に関するさまざまな取り組みを行ってまいりました。これらの取り組みを1冊にまとめた冊子を作成したところ、多くの皆さまにアデランスの活動を知っていただくことができ非常にうれしく思っております。さて、このたび作成した本冊子は、今回は掲載がなかった海外グループ各社の取り組みも盛り込みました。日本国内のみならず海外でも真の意味で、企業の社会的責任（CSR）を果たしていきたいと考えている次第です。今後も引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社アデランス
代表取締役会長兼社長

根本信男



INDEX

- **社会・地域貢献** 2 - 3
 - 愛のチャリティキャンペーン
 - One Worldプロジェクトへのお手入れ支援サービス
 - 大阪大学寄附講座と脱毛症患者のQOL向上
 - 大学との共同研究
- **お客様の安心・安全** 4
 - 病院内サロン・ネットワークの拡大
 - 医療向けウィッグのJIS化に向けた活動
- **環境への取り組み** 5
 - フォンテーヌの森の植林活動
 - 節水用シャワーヘッドの導入
- **学術・文化活動** 6
 - スタジオADのウィッグ文化への貢献
 - 人工毛髪の研究開発
- **海外での取り組み** 7 - 9
 - ヨーロッパでの病院内サロン展開
 - My New Hairへの支援
 - ピンクヘア キャンペーン
 - 米国での東日本大震災に対する募金活動
 - タイ工場での環境保護活動、廃材利用
 - フィリピン工場の労働省からの表彰
- **新たな動き** 10
 - 病院内サロン店長向けメイク講習の実施
 - 大学での特別講義や企業向けセミナーの実施

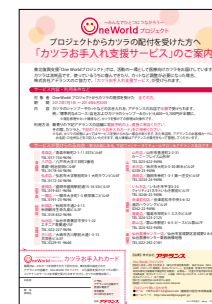
■ 社会・地域貢献

もっとたくさんの 笑顔に会いたい。 そんな思いから、 キャンペーンを 通年化しました。



愛のチャリティキャンペーン

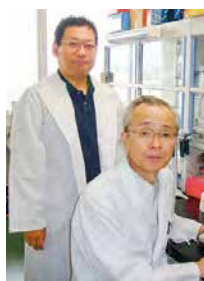
「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガで髪を失ったお子さまへオーダーメイドウィッグをプレゼントする「愛のチャリティキャンペーン」を、1978年から30年以上継続して実施しています。これまではクリスマスなどの時期の期間限定のキャンペーンでしたが、2012年9月からは年間を通じた活動に変更。一人でも多くの笑顔に出会いたいと願っています。



One Worldプロジェクトへの お手入れ支援サービス

One World プロジェクトは、2011年の東日本大震災を機に、被災地のがん患者さまのための、さまざまな物資を提供しボランティア活動を行っている被災地支援プロジェクトです。当社は、このプロジェクトの趣旨に賛同し、がん患者さまに提供する医療向けウィッグの調整やメンテナンスをサポートする「お手入れ支援サービス」を行っています。また、ボランティアの方の声に応じて、ウィッグの回収を進めています。

毛髪と頭皮の研究を 深めるために 大学との連携を 進めています。



大阪大学寄附講座と脱毛症患者のQOL向上

当社が2006年4月に開設した大阪大学大学院医学系研究科の寄附講座では、薄毛で悩む人々への新たな解決策の提供を目指しています。寄附講座担当の板見智教授と乾重樹准教授による、男性型脱毛症患者へのウィッグ効用に関する論文が、国際的に権威のある医学誌「Journal of Dermatology」2013年3月号に掲載され、その後6月14日から6月16日に開催の「第112回日本皮膚科学会総会」において、研究発表されました。今回のような統計的調査は世界初であり、この調査によってウィッグ着用により心理的QOLが改善することが、医学的に証明されました。



大学との共同研究

当社は、毛髪に関する分野で、さまざまな大学との共同研究を行っています。

たとえば東京大学大学院医学系研究科 老年看護学/創傷看護学分野の真田弘美教授と、スカルプケアサイエンスの共同研究を行うと同時に、抗がん剤で脱毛された患者さまのQOL改善アイテムとしてのウィッグの有用性の調査を進めています。

さらにバリアフリーへ。 患者さまの負担を軽減する 移動式美容イスを全店導入。



病院内サロン・ネットワークの拡大

抗がん剤治療などを受ける患者さまが気軽に脱毛ケアやウィッグについて相談ができるように、2002年より全国の病院内に順次バリアフリーの理美容室を開設。車イスに乗ったままカットやシャンプーができる移動式美容イスを導入し、患者さまの来店しやすい環境を整えています。その数は、現在約20店舗に。またこうした取り組みは、ヨーロッパでの病院内サロン展開にも広がっています。

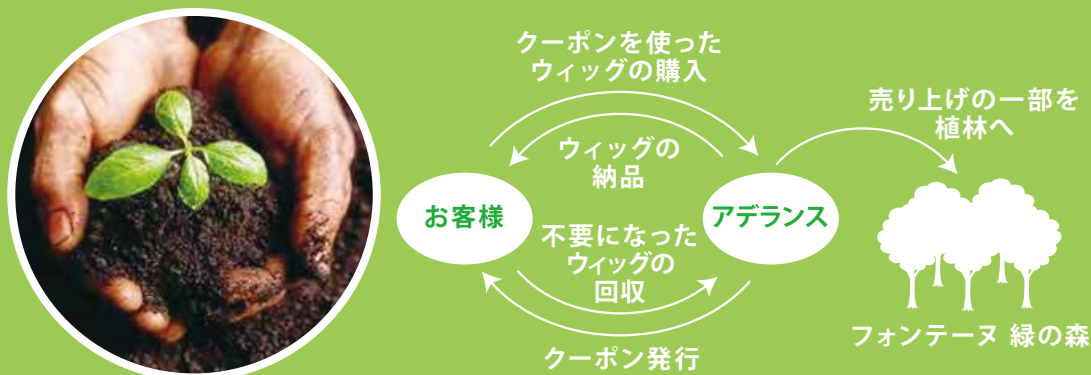


医療向けウィッグのJIS®化に向けた活動

業界団体である日本かつら工業協同組合（現：日本毛髪工業協同組合）事務局からの協力依頼を受け、医療向けウィッグの品質向上のため、日本規格協会への医療向けウィッグのJIS化の申請業務を、全面的にサポートしました。今回のJIS化の推進については、業界団体と加盟企業が一体となって社会的責任を果たしていくという姿勢に対して、経済産業省から評価をいただいています。

※JISとは、工業標準化法に基づく日本工業規格（JIS）という国家標準のことを指します。

不要となったウィッグの回収と、植林を結ぶエコサイクル。



フォントレーヌの森の植林活動

「フォントレーヌの森キャンペーン」は、2009年から始めた、ウィッグの回収と植林とをつなぐキャンペーンです。その仕組みは、不要となったウィッグを回収し、ご協力いただいたお客様へクーポンを発行。これを利用して新たなウィッグを購入した際に、その売上の一部を植林活動への寄付にあてるものです。2013年5月には、植林場所である山梨県笛吹市の山林に、「FONTAINEの森」の看板を設置。すでに500本以上の植林が行われたこの森で、今後も植林を続けていきます。



節水用シャワーヘッドの導入

当社では、理美容技術を提供する営業店に節水用シャワーヘッドを導入し、水道水の50%程度の節水と温水化するために発生するCO₂の削減に効果を発揮しています。このシャワーヘッドは、単に節水だけでなく、カートリッジにビタミンCを入れることで塩素を除去し、お客様の頭皮に、そして従業員の手にも優しいものとなっています。CSRを進める中で、顧客満足(CS)と社員満足(ES)を同時に実現しています。



エンターテインメントの世界でウィッグの素晴らしさを世の中に広めています。



スタジオADのウィッグ文化への貢献

1983年、劇団四季が日本で初めて公演を行ったミュージカル「キャッツ」。その激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季の担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。これを機に、ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団「スタジオAD」を設立。現在では、ミュージカルなどの舞台のほか、映画、テレビ、コンサートなどでその技術が生かされています。今後も多彩な文化芸能活動の場を通じてウィッグ文化の提唱を行っていきます。



人工毛髪の研究開発

安定的に人毛の風合いをもった商品をお客様に提供するため、当社は1983年より人工毛髪の研究を開始しました。その結果、1990年より「サイバーヘア」の名称で人工毛髪の発売を開始。当社の開発した人工毛髪について、東京工業大学の鞠谷雄士教授から高い評価をいただき、『プラスチック成形加工学会年次大会』で2009年から3年連続して研究発表を行いました。

日本の成功事例を海外へ。 スウェーデンで 病院内サロンスタート。



ヨーロッパでの病院内サロン展開

日本国内で2002年にスタートした病院内理美容室(サロン)。この国内のビジネスモデルが今、福祉先進国であるスウェーデンで広がりを見せています。スウェーデン 第二の都市であるヨーテボリ市のソールグレンスカ病院で、2011年2月から病院内サロンがスタートしました。今後、ドイツやオランダなどにおいても病院内サロン展開を予定しています。



My New Hairへの支援

英国女王の専属美容師をつとめ、大英勲章(MBE)も叙勲したトレバー・ソルビー氏。彼は身内の方が抗がん剤治療を受けて脱毛したことをきっかけに、チャリティー団体マイ・ニューヘアを設立。美容師へ抗がん剤で脱毛した人たちに対するウィッグのカット指導を行っています。研修参加者の多くが当社の英国子会社であるトレンド社主催の研修にも参加し、ウィッグに関する専門的な知識・技術をもつ美容師として活躍しています。



商品を通じて 乳がんの患者さまへの 支援を行っています。



ピンクヘア キャンペーン

当社の米国子会社であるアデランス・ヘア・グッズ社では、ピンク色の付け髪(Pink Hair Swatches)を販売し、乳がんの啓蒙を行っています。また同商品の収益の一部を、乳がん患者支援団体への寄付を実施しています。



米国での東日本大震災に対する募金活動

2011年3月の東日本大震災の津波被災者を支えるため、当社の米国子会社であるボズレー社は、米国の他の子会社と共同で、社員に対し募金活動を実施。各社からは予想を超えた募金額が集まり、日本の被災者に向けた募金活動として、米国赤十字社へ寄付しました。



生産拠点の タイ・フィリピンは、 地球環境も、 働く環境も大切にしています。



一例として退職する社員に対し、
廃材を利用して花束を作り、退
職時に贈呈しています。

タイ工場での環境保護活動、廃材利用

アデランスグループの生産拠点であるタイ工場では1999年、ISO14001(国際環境管理規格)を認証取得しました。ISO14001は地球環境保全活動の認証規格であり、タイ工場での環境保全の取り組みとして、以下の活動を継続して実施しています。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善



フィリピン工場の労働省からの表彰

重要な生産拠点であるフィリピン工場をもつアデランスフィリピン社(API)は、フィリピンの労働省管轄の“MDG ACHIEVEMENT FUND”から、従業員(特に女性)に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、従業員の家族への配慮に対して表彰を受けました。

CSR活動の新たな取り組みが 始まっています。



病院内サロン店長向けメイク講習の実施

病院内サロンの店長会議の中で、スタジオADのヘアメイクアップアーティストによるメイク講習を実施しました。抗がん剤治療によって、頭髮だけでなく、まゆ毛やまつ毛まで無くなってしまいう患者さまにとって、スタジオADの芸能分野で培った高いメイク技術は、患者さまの笑顔と元気を取り戻す力となります。患者さまに笑顔を蘇らせるメイク講習は、病院内サロンとスタジオADとの社会的価値が結びついて生まれた新たな取り組みです。



大学での特別講義や企業向けセミナーの実施

当社の事業を通じたCSR活動が高く評価され、大学や企業より講義やセミナーの依頼が増えています。大学の特別講義は、東京交通短期大学、金沢工業大学、駿河台大学、東京大学、追手門学院大学、関西大学などで開催。企業向けセミナーは、2011年の経済産業省の外郭団体でのCSRセミナーの発表を行うほか、「経営倫理実践研究センター」(BERC)に加盟する125社の中から、当社の「事業と一体化した戦略的CSR」が選ばれ、同センターの要請により先進事例として発表しました。